

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	インテリアデザイン論	担当教員	藤田大輔		
学年学科	3年 建築学科	前期	必修	1 単位	
学習・教育目標	(D-2) 100%				
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 本授業では以下に示す点について達成し、インテリアデザインを論理的に捉える視点を身に付けてほしい。 ①屋内空間の原理・概念に関する基礎知識を習得する ②屋内空間の構造・創造に関する基礎的知識を習得する ③屋内空間の設計方法に関する基礎的知識を習得する ④建築作品、建築家に関する基礎的知識を習得する		<b>成績評価の方法：</b> 中間試験 100 点、期末試験 100 点とする。試験の総得点を得点率に換算して評価を行う。 <b>達成度評価の基準：</b> 授業中に説明した内容について、6 割以上の正答レベルまで達していること。また下記④については、大まかな内容（評価率 6 割程度）について理解していること。 ①屋内空間の原理・概念に関する説明問題が 6 割以上正答できること ②屋内空間の構造・創造に関する説明問題が 6 割以上正答できること ③屋内空間の設計方法に関する説明問題が 6 割以上正答できること ④建築作品、建築家に関する説明ができること（6 割以上）			
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> ・授業に出席し、各理論を理解することが学習の前提である。 ・スライド・板書を中心とするが、適宜作図やグループワークも取り入れた弾力的な授業形態とする。 ・理解を深めるため、スライドや図示した建築物・建築家に対し自ら積極的に調べ、学習すること。					
<b>教科書および参考書：</b> 図解 ニッポン住宅建築—建築家の空間を読む（尾上亮介,竹内正明,小池志保子(著), 学芸出版社, 2008,02)					
<b>授業の概要と予定：</b>					<b>AL のレベル</b>
第 1 回：総論					C
第 2 回：外部に開かれた空間					
第 3 回：中庭のある室内空間					
第 4 回：外部環境への適応					
第 5 回：都市空間と屋内空間 1					
第 6 回：都市空間と屋内空間 2					
第 7 回：曖昧な境界をもつ屋内空間					
第 8 回：中間試験					
第 9 回：ヴォリュームと形態操作					
第 10 回：領域の分化					
第 11 回：人々の行動と屋内空間の関わり					
第 12 回：造形が特徴的な空間					
第 13 回：造形が特徴的な空間 2					
第 14 回：インテリアと家具 1					
第 15 回：インテリアと家具 2					
期末試験					
第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説と成績の確認）					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	屋内空間の原理・概念に関する説明問題が8割以上正答できること	屋内空間の原理・概念に関する説明問題が6割以上正答できること	屋内空間の原理・概念に関する説明問題が正答できない
②	屋内空間の構造・創造に関する説明問題が8割以上正答できること	屋内空間の構造・創造に関する説明問題が6割以上正答できること	屋内空間の構造・創造に関する説明問題が正答できない
③	屋内空間の設計方法に関する説明問題が8割以上正答できること	屋内空間の設計方法に関する説明問題が6割以上正答できること	屋内空間の設計方法に関する説明問題が正答できない
④	建築作品、建築家に関する説明ができること（8割以上）	建築作品、建築家に関する説明ができること（6割以上）	建築作品、建築家に関する説明ができない